

青少年もがみ

第26号 平成29年8月1日

一発 行一
最上地区青少年育成連絡協議会



福祉施設でボランティア活動に励む中学生

「日々一歩前進」

最上地区青少年育成連絡協議会会長 矢口 智



「大人が変われば子どもも変わる」をスローガンにしてから20年にもなるだろうか。私はその当時PTA役員としての立場で、反対の考えを様々な会合で発言していた。子どもを取り巻く環境が大きく変わり、大人世代への一層の奮起が必要との見解であろうと感じてはいたが、「大人が変われなければ、良くなるまい」とも取れる考えがとても気になった。とらえ方の問題だが、ネガティブな意味合いをもつこのスローガンを受け入れる気にならなかったのだろう。懐かしい思い出。

あれから20年、保護者の立場からは離れたが、地域の子供たちと様々な活動を行う中で改めて実感していることは、親と子の関係は強いし、ゆるぎないものだということ。余計な心配など無用ということ。

世の中の流れは日々変わってきてはいても、慌てることなく日々を過ごすことが大事。子どもが4歳になれば、親業も5年。10歳になれば親業も10年。世の中何でも絵に描いたように上手くはいかない。要するに、その時々全力である事が一番。「変わる、変わらない」の話ではないと今でも思っている。

子を持つ親はもっと自信を持つべきだ。「空威張り」で結構。青少年とかかわる皆さんも同じ。「日々一歩前進」自信をもっていこう。